

## 特集

## しっぽの会のあゆみ

しっぽの会は2008年2月、「愛玩動物を守る会」から名称をより親しみやすい「しっぽの会」に改名、動物の保護活動を続け、2010年8月にはNPO法人となりました。今号の特集は、しっぽの会のこれまでの5年間の軌跡を振り返ってみました。

## これまでのあゆみ

- 2002** ・現「しっぽの会」の稲垣真紀代表が、他の愛護団体の活動を通じ保護活動に関わるようになる
- 2003** ・現在の場所で代表が同志と二人で保護活動を始める
- 2004** ・豚舎を改築し、水道・電気・道路等の環境を整え始める
- 2005** ・「愛玩動物を守る会」を発足  
・スタッフが加わり、さらにボランティアも参加し飼い主募集がより活発化  
・支援者により、私設応援ホームページ「ちいさな祈り」開設
- 2007** 春・足長基金の制度を考案  
5月・会報を発行し、支援者へ郵送  
・犬の運動場が完成  
・保護した犬猫に混合ワクチン・感染症検査の他、不妊・去勢手術実施が本格化  
9月・猫舎と事務所をかねてプレハブを設置  
・小型犬・老犬が冬でも暖かく過せるように、廃材を利用し小型犬老犬ハウスを建設
- 2008** 2月・名称を「あいがん動物を守るHOKKAIDOしっぽの会」に改める  
・公式ホームページを開設  
6月・第1回しっぽの会アニマルチャリティ「わたしたちにできること」サッポロファクトリーにて開催  
8月・ホームページリニューアル  
9月・「2008動物愛護フェスティバルinえべつ」に初参加  
10月・しっぽの会から巣立った保護犬を対象にしたドッグケアトレーニングを2回にわたり開催  
・初のオリジナルカレンダー発売
- 2009** 5月・保護動物へのマイクロチップ装着開始  
6月・第2回しっぽの会アニマルチャリティ「わたしたちにできること」円山動物園にて2日間開催  
8月・子犬・子猫に早期不妊・去勢手術を実施  
・老犬・小型犬用犬舎にミニ運動場設置  
9月・初の写真集「しっぽの詩」発売  
・「2009動物愛護フェスティバルinえべつ」参加  
10月・オリジナルカレンダー発売
- 2010** 7月・新猫舎完成  
・オリジナルグッズ発売  
8月・NPO法人となる  
・第3回しっぽの会アニマルチャリティ「知ることからはじまる」紀伊國屋書店札幌本店にて5日間開催  
・北海道の動物行政改善を求め署名活動開始  
9月・「動物愛護フェスティバル2010」に初参加  
・「2010動物愛護フェスティバルinえべつ」参加  
10月・オリジナルカレンダー発売  
・札幌市小動物獣医師会主催の市民公開講座に講師として参加  
11月・ホームページをリニューアル  
・地域猫の取り組み始める  
・新犬舎建設  
12月・NPO北海道ボランティアドッグの会主催イベントに参加
- 2011** 3月・新犬舎完成し引越しが始まる  
5月・東日本大震災で被災したペット救済のため、応援グッズを販売開始。支援を募り継続中  
7月・第4回しっぽの会アニマルチャリティ「明日へ繋げたいせつな命」紀伊國屋書店札幌本店にて5日間開催  
9月・「2011動物愛護フェスティバルinえべつ」参加  
10月・オリジナルカレンダー発売  
12月・預かりボランティア制度発足
- 2012** 春・動物愛護の署名数17,000人提出予定

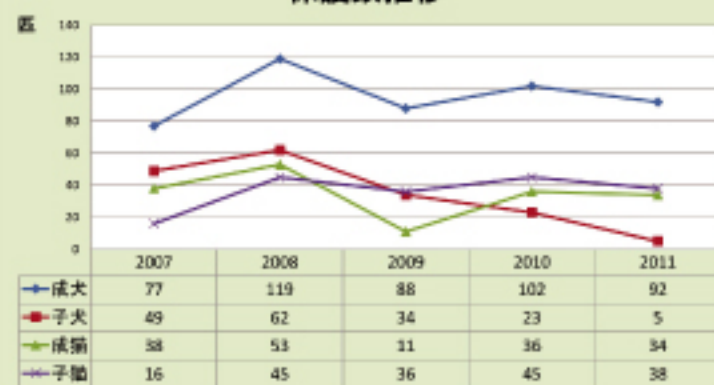
## 2007～2011 犬猫保護数・譲渡数



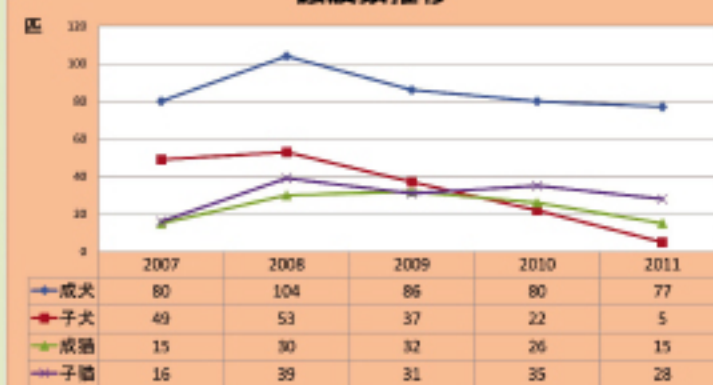
※2005年～2006年の譲渡数 122匹

2007年から2011年までに保護した犬猫数は1,003匹、譲渡数は860匹になりました。2008年は保護数、譲渡数とも最も多く、当時は保健所に收容される犬猫も今より多かったのですが、逆に保健所から譲渡される数は今よりも少ない状況でした。子犬の保護は年々少なくなっており、一般に不妊・去勢が進んでいると思われるのですが、子猫の数には大きな変化はありません。一般的に猫を完全室内飼いや不妊・去勢手術する飼い主は少なく、会には連日のように野良猫の保護や苦情の相談が寄せられます。今後は放棄される動物を減らすため、行政や民間が今まで以上に動物愛護の啓発活動を強化する必要があります。また、子供達に「命の尊さや大切さ」を伝え、さまざまな形で情操教育することが重要ではないでしょうか。

## 保護数推移



## 譲渡数推移



## 【これまでの年月を振り返って】

一人で始めた保護活動もここ数年でスタッフやボランティアさんも増え、施設の環境も整って、保護した動物のQOLを上げることも出来ました。

振り返ってみると、何年もかけて大型犬も保護できる場所を探し、10年前にやっと今の家屋を見つけ保護活動が始まりました。当時はパートもしていましたが、給与の全部が償代に消え、動物たちを病院にかけるお金もありませんでした。「病気で死ぬかもしれない・寒さで死ぬかもしれない・でも、殺されるよりはまし！」が始まりでした。犬舎にするつもりは豚舎も残骸でゴミだらけ、夫の協力もありましたが、一人で殆どを片づけました。敷地も残骸が山になっていて、車も入れないので50m余り離れた母屋から毎日ポリタンクで水を運んでいました。冬はボブスレーを使って運んだことが懐かしく思い出されます。その後、数百万円かけ残骸を撤去、電気を引き、水は自宅から管を引きました。また、犬舎用に改築するのに材料費だけでも100万かかり、糞の仕切りなどは夫が作りまし

た。夫も協力してくれたとはいえ長期になると、「家の事もせずに犬猫にお金を使って！」と喧嘩が絶えませんでした。それでも頑張って続けてこれたのは、一匹でも救いたい思いがあったからです。

その後、出会いがあって仲間が増え、私はお陰様でパートを辞め、会でパートを頼めるまでになりました。スタッフ、ボランティアさんのお陰で環境は本当に良くなりました。しっぽの会は、捨てられた犬猫が最後の命を繋ぐ場所。皆さんのご協力やご寄付がなくなれば、しっぽの会の存続は不可能です。この先の保証は何処にもありません。数ヶ月後に資金に行き詰まることもあるかも知れません。でも、もし会が運営出来なくなって私一人になっても、身体が動く限り保護活動は続けていくつもりです。私の向かう道は「一匹でも多く救う事！沢山の方に現実を知ってもらおう事！」です。私は手本となるものもなく、手探りでここまでやって来ました。この先も厳しい現実との闘いですが、今後も皆様の応援、ご支援をよろしくお願いいたします。

しっぽの会代表 稲垣 真紀